教育研究の進め方・まとめ方のポイント

★　論文の書き方を踏まえて研究を行う。

１　目指す児童生徒像

目指す児童生徒像とは、研究を通して実現を目指す子どもの姿を表したもの。

(1)「成長した子どもたちの姿（＝目指す児童生徒像）の実現」が教育研究の目標である。したがって、学説や理論を説明するにとどまらず、それによる子どもの変容や成長を論じていることが教育研究論文においては必要である。

(2) 目指す児童生徒像の設定は、子どもの実態把握から始める。
「教員の気付き」＋「実態調査（客観的な調査)」→子どもの実態

(3) アンケート調査は、事前・事後の比較に適した内容で行う。

(4) 目指す児童生徒像は、できるだけ具体的に書く（説明する)。

２　研究の仮説

研究の仮説とは、「どのような手段」によって「目指す児童生徒像」を実現できると考えるのかを表したもの。

(1) 整理が重要

ア　「目指す児童生徒像」と「仮説」の関係
目指す児童生徒像は、仮説の中に過不足なく、重複せずに取り入れられているか。

イ　複数の「仮説」の関係
複数の仮説同士の内容は、重複したり包摂関係になったりしていないか。

ウ　「仮説」と「手だて」関係
仮説の中の手段と手だて（複数の場合はそれを束ねたもの）とが内容的に一致しているか。

３　手だて

手だてとは、抽象的な内容にとどまる仮説の中の手段を、実際の授業や活動で実践できる程度にまで具体化したもの。

(1) 十分に具体的であること。

(2) 手だてと目指す児童生徒像とに、因果関係があること（手だては、目指す児童生徒像の実現にとって合理的な内容であること)。

４　研究主題

(1) 研究主題とは、研究の内容を分かりやすく端的に表したもの。

ア　研究主題は、「目指す児童生徒像」「仮説」「手だて」を設定してから決めればよい。

イ　「目指す児童生徒像」「対象（例：３年生理科)」「方法」の３要素を入れる。

(2) 主題設定の理由とは、研究にいたる経緯や研究の必要性を説明したもの。

ア　国の動向、地域の実情、学校の教育目標も考慮されているとよい。

イ　子どもの成長に対する願いが主目的となるように（理論の紹介が主目的とならないように)。

５　検証計画

(1) どのような検証材料を、どのような機会に収集するかを計画しておく。

(2) 抽出児童生徒と全体とがバランスよく検証されることが重要。

(3) なぜその子どもを抽出するのかを合理的に説明する。

６　研究（単元）構想図

(1) 研究全体が一目で分かるように整理する。

(2) あまりにも細かくならないようにする。

(3) 実践前に構想図を書き、計画に不備がないかを確認する。

７　実践と考察

(1) 計画に沿って実践する。

ア　原則として、急に思いついたことをやらない。

イ　計画していたことは全て実践する。

(2) 丁寧に記述する。

ア　論文全体で、計画が２０％、実践・考察が８０％の分量を目安にする。

イ　計画した複数の手だてのうち、どの手だてが実践された場面かを本文中に明確に示す。

ウ　子どもの様子の記述には、地の文だけでなく、会話文を入れるとよい。そのための記録をしっかりと取っておく。

(3) 研究のポイントに絞って書く（実践全てを平板に書かない）。

８　研究の成果と課題

(1) 計画に立ち返って、一つ一つ成果を確認する。

(2) 計画にないことを述べない。計画したことは全て確認する。

(3) 成果が出なかったこと（上手くいかなかったこと）も貴重な研究成果として記す。

(4) 次の教育研究や実践につながる今後の課題をしっかりと書く。

９　資料の掲載

資料の掲載は必要最小限にとどめ、見やすく配置する。

(1) 個人情報の保護

ア　不要な写真などは載せない。

イ　写真は、複数の子どもを、顔が写らない角度で撮影したものを使用することを原則とする。

ウ　顔が写っている写真は、個人が特定できないように加工する。

エ　子どもの自筆の文章は、できるだけ打ち直して掲載する。

オ　他の資料と合わせて個人を特定できる可能性がある内容については、本人と保護者の承諾を得る（どのような文脈で論文に記されるのかをきちんと説明する）。

(2) 著作権への配慮

子どもの作品も著作物であることに注意。必要な範囲で、承諾を得て掲載すること。

(3) 引用

引用部分は、それが引用だと分かるように書く（かぎ括弧・字下げ）。

(4) 参考文献

ア　引用した文献は全て掲載する。

イ　参考文献の書き方を調べる。

10　研究の独創性

完全に独創的な内容にするのは難しいが、上手くいくことが分かっていることを実践しても研究とはならない。既存のものを改良したり、新しく組み合わせたりするなど、新しい取り組みとなるように工夫する。

更に詳しく知りたい方は、サポートデスクへお申し込みください。

教育研究についての詳細をまとめた冊子「教育研究ハンドブック」をお渡しします。